

1. 報告事項 1)

2012(平成24)年度事業報告並びに収支決算について
(2012.04.01～2013.03.31)

酪農学園同窓会連合会(以下本会)は、会則の目的に則り、会員相互の親睦と交流を深めるために、単位同窓会および地区支部同窓会の諸活動への協力を行ってきた。2012年度の特記事項として、大学校友会の協力により地区支部における総会開催等への連絡通信費を助成していただいた。

2009年度に本会会則の抜本的な改正を行ったが、会則に定める地区支部同窓会について、各都道府県の組織化は進行中であるが下記のとおり新たに4支部が誕生した。今後、北海道、本州における未設置地区支部の解消が大きな課題である。

また、昨年度は会則に基づく代議員会を開催することが出来たが、まだ組織が確立していないため、早急な組織財務検討が必要な状況となっている。

こうした状況下、本会は学園からの協力要請を受けて、学生生徒募集活動、就職支援および公開講座等についても学内関連部署と連携して積極的に取り組んでいる。本年度の主な活動状況は、次のとおりである。

全体概況

1. 会員について(Newsletter1頁参照)

本年度は、大学644名、大学院41名、高校291名合計976名の卒業生を輩出した。

これにより、本会会員は56,119名、および酪農義塾303名、酪農学校92,000名、合計148,422名となった。

2. 地区同窓会及び支部組織について

1) 北海道地区支部の状況

・石狩地区(第1)江別支部、道南地区(第3)南後志支部や道北地区(第4)、道東地区(第5)において組織化に向けて世話人会や発起人会を発足しつつある。

2) 本州の状況

- ・近畿地区で京都府支部、和歌山県支部が設立した。
- ・九州地区で熊本県支部(再構成)、沖縄県支部が設立した。

3) 海外支部(中国新疆農業大学)の設立について

4) 学園の要請により、職域OB会として本学OBによる小動物開業獣医師会の組織化が行われた。

(石狩地区、兵庫県、中部地区、大阪府、東京白樺会は既設)

5) 職域OB会として緑風会(教員OB会)兵庫支部が発足した。

3. 理事会および各委員会等の開催状況について

(1) 理事会

日時 2012年5月28日(月)

場所 札幌ガーデンパレス5階あやめ

議案 報告事項および審議事項

1. 2011 年度事業報告並びに収支決算について(報告)
2. 同窓会連合会代議員について(報告)
3. 2012 年度事業計画(案)並びに収支予算案(審議)
4. その他

(2)理事会・代議員会

日時 2012 年 5 月 29 日(火)

場所 酪農学園事務本館第一会議室

議案 報告事項および審議事項

1. 2011 年度事業報告並びに収支決算について(報告)
2. 同窓会連合会代議員について(報告)
3. 2012 年度事業計画(案)並びに収支予算案(審議)
4. その他

(事業計画に基づく報告)

1. 会則改正に伴う関連諸規程等の整備(継続・新規)

- 1) 会則改正に基づく、支部の設置推進と地区同窓会会長の選任を進める。
⇒京都支部、熊本支部(再構成)、和歌山支部、沖縄支部の設立協力
⇒大分支部、道内宗谷支部、後志支部、胆振支部、釧路支部、江別支部設立準備中
- 2) 地区支部設置に関連して、会則の関係条項を整備する。
⇒組織財務検討委員会の中で、2015年度に向けて会則改訂条項を整理中
- 3) 会則も含めて組織問題検討委員会を設置して検討することとする。
⇒組織財務検討委員会(岡田勉委員長)を設置し、答申案(報告事項2)を作成した。

2. 財政健全化方策の検討(継続)

- 1) 財政健全に向けての検討委員会を設置して検討することとした。
⇒組織財務検討委員会(岡田勉委員長)を設置し、答申案(報告事項2)を作成した。
- 2) 同窓会専用葉書を作成し、地区支部の通信費軽減を図ることとなった。
⇒受取人払専用はがきを10万枚作成し(学園だより同封)各地区支部総会で使用した。
⇒今年度も校友会の助成を受けて継続実施予定。

3. 会員情報の管理(継続)

- 1) 卒業生名簿管理について、追跡調査を実施する。
⇒上記、専用はがきにより最新住所の更新を実施中。
- 2) 追跡調査について、学内教職員の組織的な協力体制を構築する。
⇒学内HPを作成し、学科別不明者リストにより追跡調査を開始した。

4. 同窓会報の発行等(継続・新規)

- 1) 同窓会や同期会開催案内について、計画的に「学園だより」を活用して掲載する。
⇒「学園だより」7月1日号に東京支部、九州地区連合、福島支部、石狩地区のお知らせ掲載
- 2)、総会等での情報共有を図るため、同窓会だより「NEWS LETTER」を発行する。
⇒同窓会だより(1巻4号～9号、特集号(総会報告))を発行した。

5. 支部同窓会会長会議(地区別)の開催(新規)

- 1) 地区・支部活動推進に向けて、地区・支部間の情報交換を行うため、支部会長会議を開催する。
⇒財政上の目途が立たず、未実施。2015年度以降に実施予定。

6. 地区・支部同窓会等への支援(継続)

- 1) 長期活動休止の支部への財政的に積極的な働きかけを行い、支部活動の活性化を計る。
⇒専用はがきによる総会出席者の出欠集約作業や宛名シールの打ち出しを実施。
⇒残念ながら十分には浸透していない状況なので引き続き継続したい。
- 2) 新支部の設立に向けて支援を行う。2012年度は道内、九州、四国、中国地方を対象とする。
重点支部(道内:宗谷、胆振、後志 道外:大分県、沖縄県、香川県、島根県)
⇒宗谷、胆振、後志については準備中。沖縄県が設立した。
- 3) 地区・支部企画行事への支援を行う。
⇒具体的な地区支部企画行事の提案をいただきたい。
- 4) クラブOB会、研究室等OB会、教員OB会への支援を行う。
⇒獣医学科OBの小動物開業医会の組織化に協力した。
⇒緑風会(教員OB会)の総会や研修会への出席と協力を行った。
⇒クラブOB会や研究室OB会開催に対し、助成金の交付と同窓会HP掲載を行った。
クラブ関係OB会のHPリンク集を作成する。
⇒同窓会HP上にリンク集を作成した。追加掲載中。
- 5) 同期会開催への支援を行う。
⇒同期会開催について、助成金の交付と同窓会HPへの掲載を行った。

7. 学校法人酪農学園との懇談会開催(継続・新規)

- 本会の円滑な運営に資するため、総会時に学校法人酪農学園役員との懇談会を開催する。
⇒2012年度5月28日代議員総会時に学園役員との懇談会を実施した。
⇒次年度より時間が限られているため、事前に懇談テーマをしぼって実施することとなった。

8. 同窓生講演会の開催(継続)

- ホームカミングデーに合わせて、酪農学園同窓生講演会を開催する。
⇒2012年9月15日(土)、工藤英一氏(農経OB)、大黒宏氏(酪農OB)、永井進氏(高校、短大OB)をお招きして座談会方式での講演会を実施した。詳細は同窓会HPを参照願います。

9. 生涯学習講座事業の実施(継続)

- 1) 卒後の生涯学習講座事業や地域単位のイベント開催等についての支援を実施する。
⇒後援会の助成により生涯学習講座事業を資料(19頁)のとおり実施した。
- 2) 後援会の公益財団法人化(申請中)に伴う諸公益事業への協力支援を実施する。
⇒後援会のホームページ作成等への協力支援を行った。

10. 新卒者への記念品の贈呈(継続)

- 1) 新卒者に対して、記念品を贈呈する。(大学同窓会校友会等单位同窓会で実施)
⇒酪農讃歌のCDと酪農ジャーナルを記念品として校友会事業で贈呈している。

11. 同窓会ホームページの管理(継続)

- 1) ホームページに掲載しているコンテンツ(企画)を拡充し、インターネットの双方向性を生かし、同窓会と会員との連携を深めるサイトとしての役割を確立する。

⇒支部だよりや地区会報(あるまめ一と)のPDF掲載により情報共有を図った。

2)既存ホームページの掲載記事を見直し、定期的に更新作業を行う。

⇒会員動向ページの新設により慶弔等の掲載を行った。

12. 同窓会奨励賞の設置検討(新規)

1)奨励賞を募集し、表彰する。 同窓会特別奨励賞

学術、文化、スポーツ、芸能等で顕著な活動をした個人(団体):3件以内

2)特別奨励賞推薦方法について、定期総会、支部長会、支部総会、学部同窓会長との意見交換会、同窓会報、ホームページ等を通じて、引き続き周知する。

⇒財政上の問題から検討のみに終わったが、獣医学科三愛賞等を参考にして設置を検討していきたい。

13. 東日本大震災に対する支援(継続)

1)被災された学生・同窓生に対するの支援を検討する。

⇒学園の実施する修学支援募金事業に協力した。

2)その他、必要とされる援助を行う。

⇒2011年度関東地区同窓会で同窓生から問題提起された放射能除染等の問題について、EXCの協力により栃木県酪農公開講座において本学から関連講師派遣が行われた。

⇒ボランティア事業で活躍する同窓生をホームページ等で紹介した。

14. (2013年度)学園80周年記念事業への協力(新規・継続)

1)記念事業に関する情報を収集し、本会の協力内容を検討する。

2)記念事業としての記録写真のデータベース化への協力。

⇒同窓会所有の記録写真のデータベース化に協力した。

15. 同窓生への求人情報の提供(新規)

1)就職部と連携し、同窓生に限定した求人情報を提供する。

⇒同窓会ホームページに同窓生求人欄を設けて情報提供を行った。

16. 大学同窓会校友会との業務統合について(新規)

1)大学同窓会校友会との協議により、業務統合を志向する。

⇒2014年度からの校友会組織一元化に向けて事務局機能の充実に協力した。

17. 同窓会連合会の理事会、代議員開催日の固定化(新規)

理事会・代議員会は学園理事・評議員会の5月決算総会の当日・翌日に開催することを原則としたい。

⇒毎年、理事会を4月末か9月末、代議員総会を上記のとおり学園評議員会日翌日に固定化した。

18. 同窓会連合会40周年記念誌発行に向けての準備(新規)

2013年は同窓会連合会創立40周年であり、記念誌発行に向けての準備を進める。

⇒1993年から2012年までの20年間の総会資料等を整理中。

19. 同窓生会館ロビーの学園関係者(同窓生含む)への利用(新規)

同窓生会館の1階ロビーについて、学園関係者の学園訪問時の休憩場所として利用したい。

⇒2012年4月より同窓生会館1階ロビーを学園関係者の利用に供するため、学園の協力により

TV設置やPC設置を行った。

参考資料1. 後援会の講座開設助成の状況(19頁～20頁)

2012 年度 一般会計収支決算書

自 2012 年 4 月 1 日

至 2013 年 3 月 31 日

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	備 考
単位同窓会負担金	957,374	957,374	0	
大学短大住所管理負担金	500,000	500,000	0	
酪農学園助成金	2,100,000	2,100,000	0	
生涯学習講座開設助成金	0	350,000	-350,000	後援会より助成
酪農学校学籍管理業務受託金	500,000	500,000	0	学園より業務受託
学生生徒募集業務受託金	0	0	0	学園より業務受託
受取利息金	1,000	511	489	
特別会計繰入金	1,000,000	0	1,000,000	
雑収入	15,000	0	15,000	住所シール・祝金
未収金	0	18,000	-18,000	(負担金未収金)
当年度収入計 (A)	5,073,374	4,425,885	647,489	
前年度繰越金	4,378,213	4,360,213	18,000	(未収金 18,000 減)
収入合計 (B)	9,451,587	8,786,098	665,489	
職員人件費	0	0	0	
事務処理業務委託費	2,050,000	2,049,992	8	
運営費	4,330,000	3,920,460	409,540	
消耗品費	130,000	170,867	-40,867	
消耗器具費	0	5,980	-5,980	
光熱水費	300,000	325,783	-25,783	
旅費交通費	3,000,000	2,581,936	418,064	総会・支部総会
通信費	150,000	81,071	68,929	電話・切手
印刷製本費	150,000	91,716	58,284	コピー代等
会議費	100,000	106,200	-6,200	役員会・交流会等
雑費	500,000	556,907	-56,907	慶弔費等
住所等調査費	50,000	22,161	27,839	
生涯学習講座運営費	750,000	990,000	-240,000	講座運営経費等
学生生徒募集活動費	0	0	0	
特別会計繰入金	0	0	0	
当年度支出計 (C)	7,180,000	6,982,613	197,387	
当年収支差額 (A - C)	-2,106,626	-2,556,728	450,102	
次年度繰越金 (B - C)	2,271,587	1,803,485	468,102	

2012 年度 特別会計収支決算書

自 2012 年 4 月 1 日

至 2013 年 3 月 31 日

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差 異 (A-B)	備 考
前年度繰越金	5,807,960	5,807,960	0	
一般会計繰越金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
受取利息金	5,000	1,203	3,797	
収入合計	5,812,960	5,809,163	3,797	
支出	0	0	0	
基金取崩	1,000,000	0	1,000,000	
支出合計	1,000,000	0	1,000,000	
次年度繰越金	4,812,960	5,809,163	-996,203	

2012 年度 貸借対照表

2013 年 3 月 31 日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
一般会計 預金	1,680,847	一般会計次年度繰越金	1,680,847
現金	122,638		122,638
未収金	0		0
小計 (運転資金)	1,803,485	小計 (運転資金)	1,803,485
特別会計 預金	5,809,163	特別会計次年度繰越金	5,809,163
小計 (特別基金)	5,809,163	小計 (特別基金)	5,809,163
合計	7,612,648	合計	7,612,648

参考 2011 年度 一般会計預金・現金額 4,378,213
 特別会計預金額 5,807,960
 合計 10,186,173 (前年度増減 -2,573,525)

預金等内訳表

区分	預入銀行等	種別	金額	備考
一般会計	同窓会連合会事務局	現金	122,638	運転資金
	同窓会連合会事務局	未収金	0	運転資金
	北海道銀行大麻支店	普通預金	680,847	運転資金
	北海道銀行大麻支店	定期預金	1,000,000	運転資金
特別会計	北海道銀行大麻支店	普通預金	59,798	特別基金
	北海道銀行大麻支店	定期預金	5,749,365	特別基金
合計			7,612,648	

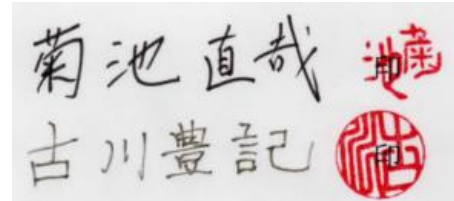
2012(平成24)年度酪農学園同窓会連合会

監査報告書

酪農学園同窓会連合会

会長 野村 武 様

監事



2012(平成24)年度(2012年4月1日~2013年3月31日)酪農学園同窓会連合会の会計について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

1. 監査期間
2012年4月1日~2013年3月31日
2. 監査期日
2013年4月17日
3. 監査場所
同窓生会館応接室
4. 監査対象
2012(平成24)年度 酪農学園同窓会連合会 一般会計並びに特別会計

以上

報告事項 2) 組織財務検討委員会報告について (答申案)

1) はじめに

2006年に開始された同窓会連合会の組織見直しは、先達の方々の数年にわたる努力により、2009年3月に会則に改訂し、同窓会連合会における地区制の導入、代議員制の導入等を決定した。

それは、単位同窓会(経系)と地区支部同窓会(緯系)の組織再編を意味し、全国を12ブロック(地区)に分け、75支部を網羅的に組織化する画期的なものであった。

しかし、実施にあたり、財政的な裏付けおよび単位同窓会における組織決定が行われていなかったため、会則の具現化にあたっては財政上の抜本的見直しが必要となった。

このことにより2011年度代議員会において、改めて組織財務検討委員会において、抜本的な検討を行うこととなった。

2) 組織財務検討委員会組織 (同窓会連合会会長指名による)

委員長 岡田 勉 (関東甲信越地区会長・連合会副会長)

委員 紺野勝歳 (北海道一区(石狩)会長・札幌支部長)、山本浩光 (近畿地区会長)

野村 武 (大学同窓会校友会会長)、竹花一成 (同左事務局長)

堀内信良 (短期大学部同窓会会長・連合会副会長)、筒井静子 (同左事務局長)

浅野政輝 (高等学校同窓会会長・連合会副会長)、伊藤俊文 (同左事務局長)

石田貞夫 (同窓会連合会副会長)

書記 浦川利幸 (同窓会連合会事務局)

3) 今後の答申案の取進めについて

組織財務検討委員会では、次の意見書(答申案)について2015年度からの実施に向けて同窓会連合会総会および各単位同窓会総会、地区支部同窓会等での組織検討を経て実施に向けて進めていきたい。

4) 答申原案

組織財務検討委員会は、1月18日(金)、3月8日(金)の2回の委員会を開催し、以下の4点を中心にして議論を重ねてきた。1. 会則上の問題点。2. 財政上の問題点。3. 各単位同窓会と連合会の業務連携の推進。4. 地区支部同窓会の組織強化。

その結果を以下のとおり検討委員会案として取りまとめた。今後、第3回において答申案を取りまとめ同窓会連合会理事会へ提出していきたい。

1. 総論 (骨子)

2006年度同窓会連合会において、支部活動のブロック制の導入や代議員制の導入を決定し、会則改訂を進めてきており、2012年度においてようやく会則の実質化に着手したことは前述したが、この会則を基本とした意見書答申案を提案したい。

創立40周年の節目の年を契機に同窓会連合会を再編して、高等学校同窓会、短期大学同窓会、大学同窓会校友会の各単位同窓会に、地区支部同窓会を加えた仮称「酪農学園同窓会」を新たに設立し、組織、財務を一元化して運営することを提案したい。

目的

1) 「全国津々浦々で活躍する同窓生が共に酪農学園の学舎で学び、青春のひとときを共有した同窓として、設置学校の垣根を越えて、親睦を強めると共に絆の全国ネットワークの確立」をめざしたい。

2) 現会則の目的と同様に、少子化により厳しい競争環境にある「母校酪農学園」の発展に多面的に寄与すること。

3) 15歳の現高校生から100歳に近い酪農義塾一期生までの、酪農学園に学ぶ学生生徒およびすべての同窓が集える開かれた同窓会づくりを志向する。

酪農学園(高校、短大、大学)の同窓生は、毎年千名を超える卒業生を輩出し、通信教育(9万人)を含めるともうすぐ15万人になろうとしている。

これらの同窓生は、酪農を中心とした産業界、政治、経済、芸術、教育等社会のあらゆる分野において活躍している。

特に農業分野では地域社会における組織（自営者、農協職員、農業教員、獣医師、関係団体、関係企業等）で日本農業を支える基盤となっていると言っても過言ではないと考える。

このことは、三愛精神と健土健民の実学教育に根ざした酪農学園教育の結実でもあり、またミッションでもある。黒澤酉蔵翁が唱えた「健土健民健産」思想の具現化のためにも、地域社会で活躍する同窓生で構成する同窓会組織化は急務の課題であると考え。この使命を担う同窓会組織化推進は母校酪農学園の発展にも多大に寄与するものであることを確信している。そのためには会則に則った組織作りの推進を各单位同窓会が力を合わせることによって実現する必要がある。以下に具体的な方策については各論においてのべることとする。

2. 各論

・組織財務全般について

各单位同窓会の組織は、2009年会則改訂以降、以下のとおり大きく変化した。

高等学校同窓会は2012年11月23日の通常総会において、とわの森三愛同窓会と機農会、三愛会が組織統合し、一本化されることになった。

短大同窓会は2011年度卒業生を持って、62年の歴史に幕を降ろすことになった。また、大学同窓会校友会は2011年度からの大学再編に合わせて、それまでの学科同窓会を統合して酪農学園大学校友会として一元化されることになった。その中で会費の値上げや在学生の準会員化も決定している。

こうした単位同窓会の動向の中で、同窓会連合会の40周年の節目の年でもある今年、3単位同窓会の組織統合を模索することとしたい。

従来、単位同窓会と地区支部同窓会は独立した形でそれぞれ運営されてきたがこれからは、出身学校別の単位同窓会（経糸）と地区支部同窓会、職域同窓会等（緯糸）を織り混ぜながら、組織と財政を一元化するような同窓会組織運営をめざしていきたい。

具体的方策

・組織財務全般について

- 1) 高等学校、短期大学部、大学同窓会校友会の3単位同窓会は、組織、財政を含めて仮称「酪農学園同窓会」に2015年度に向けて統合していく。
- 2) 大学同窓会校友会、短大同窓会の事業活動に伴う業務運営を同窓会連合会事務局に移管していく。高等学校同窓会については可能なものから移管していく。
- 3) 同窓会事務局は、学園との協議により学校法人酪農学園内に（仮称）「事務センター」を位置付けし、同窓会に係る業務運営全般を担当することとしたい。

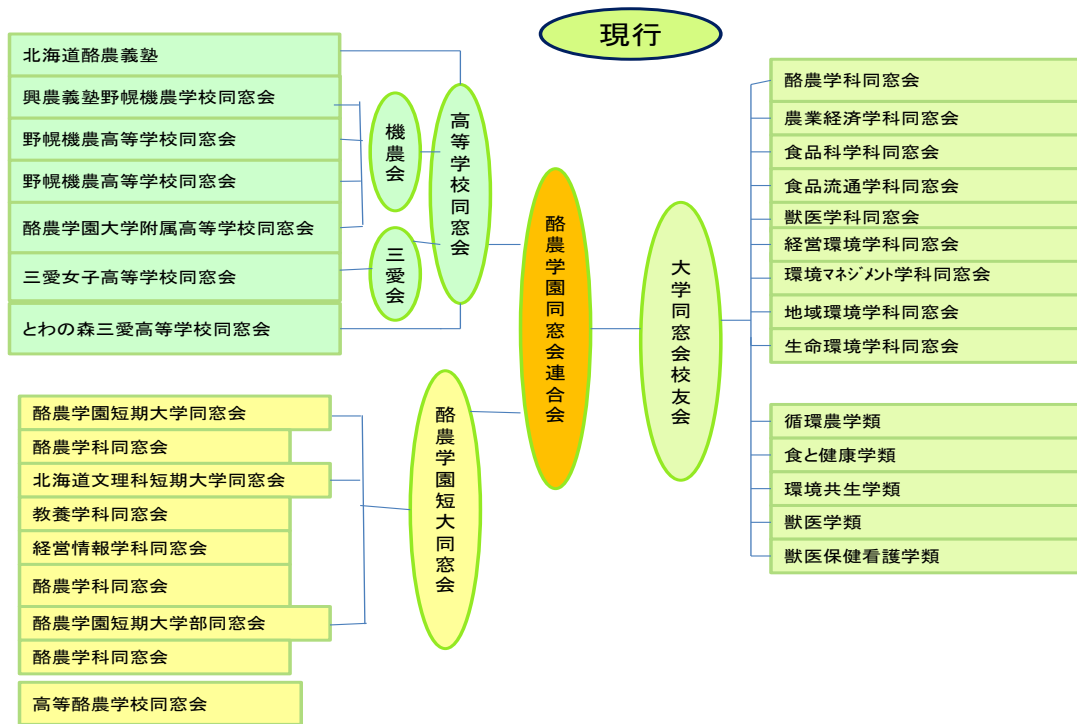
・現行会則の問題点について

2015年以降に以下の条項について会則改訂を検討する。

- 1) 設立当初の「目的」にそぐわない部分についての字句の加筆。
- 2) 「代議員」の定数については財政基盤の確定後に現行の暫定運用を修正する。なお、会員数の多い地区での「比例制」導入も合わせて検討する。
- 3) 会長の「任期」は再任の「限度年数」をはずすこととしたい。
- 4) 「常務理事」について、事務局長との分掌の違いが明確でないため削除したい。

・地区支部同窓会強化方策について

- 1) 会則に基づく地区支部設置を推進する。
- 2) 12地区同窓会の組織強化を図りたい
- 3) 通信連絡費等支部活動費についての助成支援強化を早急に進めたい。
- 4) 学生生徒募集への支援協力の推進。
- 5) 学生生徒の就職活動の支援協力の推進
- 6) 卒業生と地区支部との交流支援の推進



酪農学園同窓会組織構成案 (2015～)

